別紙３　ホールの要求水準

各ホールの舞台設備は、以下に示した仕様を標準として提案すること。なお、建築計画に合わせ、部分的変更や更なる提案については事業者に委ねるものとする。

【基本事項】

1. 建築及び一般設備

要求水準書及び「別紙２　諸室の要求水準」、「別紙４　諸室に設置する備品等リスト」を確認、参照して検討にあたること。

閉じて利用する際に遮音、防音、遮光が問題なく行えることを前提とした上で、開かれたホール、より多くの人がさまざまな環境で鑑賞できるホールとしての拡張性を持たせること。

「開かれた」ホールの提案に際しては、本事業の特性を活かして運営と建築の連携により実現することを意図して検討すること。特にメインホールについては、舞台芸術を上演するホールとしての性能を堅持した上での提案とすること。

閉じた際に外から見えるようにするかどうかは提案によるが、上記のとおりホールとしての使用に支障のないようにすること。

2. 舞台特殊設備

舞台設備は、舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備、映像設備、舞台連絡設備、舞台進行監視設備などの総称で、ホールで行われる各種の舞台公演、集会や式典などの演出や上演を支えるための設備とする。

舞台設備に求められる共通の要求水準として、以下を踏まえること。

- 建設時（竣工時）に同等品であれば、最新の機器を設置することを基本とすること。また、将来的な拡張性や柔軟性を備え、さらに容易な更新が可能な設備とすること。
- 安全性・操作性に十分配慮した設備とすること。
- 起動及び駆動時に高い静音性や静振性を備えた設備とすること。
- ライフサイクルコストに優れた設備とすること。
- 環境負荷の低減、省エネルギーに配慮した設備とすること。

【メインホールの要求水準】

課題	・老朽化が進み、人口規模に対して規模も過大であり、維持管理費が高い。 ・大ホールと中ホールの動線に課題がある。 ・大ホールの席は、古く、狭く、舞台が見えにくい。 ・各ホールや会議室の利用のうち５～７割は市の主催・共催であり、減免利用が多く稼働率に見合う収入が得られていない。
基本的な過ごし方	・吹奏楽を中心とした「音楽のまち」蒲郡の文化芸術の発信拠点となる。 ・これまで以上に多様なジャンル、内容の舞台芸術の鑑賞ができ、新たな嗜好を見つけたり、心が躍ったり癒されたりする。 ・講演会、展示会などで新たな知見を得て自らの学びや活動につなげられる。 ・市内最大のホールとして適切な舞台設備や快適で観やすい客席を有し、現市民会館での利用内容に対応した上で、開放時には敷居が低く、閲覧・学習、遊

	び、ラウンジなどさまざまに変化して誰でも気軽に利用できる。 ・ホールとして閉じた利用と多様に開かれた利用とで、「空いている」日がないぐらい活用される。

1. 建築

(1) 舞台

- 生音のコンサート、会議・講演、電気音響を用いたロック・ポップス等のライブ、演劇、演芸、ダンス、伝統芸能、映画会等に利用できるようにする。
- 生音のコンサート時は、可動の音響反射板を設置して使えるようにする。
- 主舞台の間口・奥行きはそれぞれ８間（14.5m）とし、上手・下手にそれぞれ主舞台の半分程度の大きさの舞台袖を設ける。袖幕等の滞まりスペース、上手・下手間の通行ルートなども適切に設ける。
- 音響反射板を設置した際、３管編成が問題なく舞台上に配置できるようにする。
- 舞台機構、舞台照明、舞台音響の制御盤室等の各種盤やアンプ設置室を適切に設ける。
- 舞台照明の器具、舞台音響の機器等を収納する器具庫を設ける。
- 舞台下手袖前には卓の操作スペースを設ける。
- 大道具等の倉庫については「別紙２　諸室の要求水準」に記した管理エリアの要求水準を参照すること。

(2) 楽屋及び楽屋周辺

- 小楽屋（１～３名）２室、中楽屋（10名程度）２室、大楽屋（20名程度）１室を設ける。
- 楽屋には化粧前（鏡、電源、照明等）を適切に設ける。
- 小楽屋には専用のシャワーブースを設ける。
- 共用のシャワー室を２室設ける。
- 大楽屋は防音とし、練習室としても使えるようにする。静かさを評価する指標としてNC-25程度を確保する。
- 楽屋ラウンジ、給湯室、出演者・スタッフ用トイレ、楽屋備品庫を適切に設ける。
- 出演者の入退館のための楽屋出入り口を設け、近接する位置に楽屋事務室を設けて利用者が入退室管理を行えるようにする。
- ホール利用時は一般来館者や観客と明確にセキュリティを分けた動線とするとともに、ホール利用のないときは各楽屋を単独で利用できるアクセスを考慮する。
- 楽屋廊下にはケータリング等の机や衣装ラックを設置することを想定し、十分な廊下幅を確保する。
- 【任意】洗濯機、乾燥機が使える洗濯室を設けてもよい。

(3) 客席

- メインホールの客席数は800席以上とする。
- 客席幅はゆとりのあるサイズとする。

- 客席の列と列の間の幅を十分に持たせて、人が行き来しやすいようにする。
- 客席は２層とし、１階席のみでも利用できるようにする。
- １階客席は移動観覧席とし、固定席と遜色ない水準のものとする。
- 客席壁の一部を共用部に開くことができ、移動観覧席を収納して共用部とつながることで、閲覧・学習スペース、展示スペース、軽運動・遊び場スペース等としてさまざまに転用したり、開放したりできるようにする。
- 多目的鑑賞室（親子鑑賞室）、車いす席などを適切に設ける。
- 生音の残響時間は、通常満席時1.3～1.5秒、音響反射板設置満席時1.6～1.8秒を目安とする。なお、ホールの性格等を踏まえ、より適切な残響時間を事業者が提案することは可とする。
- 設定した残響時間の実現方法は事業者の提案とするが、初期反射音の３次元コンピューターシミュレーションや残響時間シミュレーションを行い、実現性を確認すること。
- 鑑賞に問題のない静かさを担保できるよう、閉じて利用する際には静かさを評価する指標としてNC-20程度を確保する。

(4) ホワイエ

- ホール利用のないときは共用部と一体化したり、展示・練習等の空間として単独利用したりできるようにする。
- パーティションや間仕切り等により、有料公演開催時には一般来館者と、チケットをもぎった後の観客の動線を明確に区別できるようにする。
- 電子チケットでのチケットもぎりを想定した電源等を備える。
- 主催者のための控室（40㎡程度）を設ける。
- ホワイエで利用する備品を収納する備品庫を設ける。
- ホワイエ内（専有部）において、客席数に応じた男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレを設ける。空気調和・衛生工学会の「衛生器具の適正個数算定法」による算定方法にて、サービスレベル１を満たす個数となるように努める。観客の男女比に応じて、間仕切り位置を変えるなどして個数が変えられるようにすること。

2. 一般設備

下記の設備等を設けること。

- 公衆無線LAN、有線LAN
- 電気（照明・電源）
- 防犯カメラ（ITVと連携して計画すること。）
- 電気時計
- TV端子（楽屋　ITVと連携して計画すること。）
- 給排水設備
- 流し台（給湯）
- 洗面化粧台（楽屋）

- シャワー設備（シャワーブース）
- 電気錠（楽屋口）

3. 舞台特殊設備

(1) 舞台機構設備

- 吊物配置計画は演出の自由度を第一に考えた計画とし、舞台の大きさに適した本数・数量を設置するものとする。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能の提案は可とする。

［参考仕様］

プロセニアムサスペンションライトバトン
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付、過負荷検知機能付 ・プロセニアムスピーカーの音線や三点吊りマイクなど、各設備との位置調整を行うこと。 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
可動式プロセニアム（ティザー・ウィング）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・プロセニアムスピーカーの音線や三点吊りマイクなど、各設備との位置調整を行うこと。 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
吊物バトン（12台以上）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：可変速、レベル設定・表示機能付 ・昇降速度は、最高速度60m／分程度とする。 ・積載荷重は最大500kgを見込むこと。
サスペンションライトバトン（4台）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
ボーダーライトバトン（2台）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
アッパーホリゾントライトバトン（1台）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・ホリゾント幕との距離に配慮した位置に計画すること。 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
幕バトン（13台程度）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一文字幕・袖幕・引割幕バトンは一定速、その他は可変速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は必要となる幕の積載荷重以上を見込むこと。 ・（参考）引割緞帳バトン1本、暗転幕バトン1本、一文字幕バトン4本、袖幕バトン3本、引割幕バトン2本、大黒幕バトン1本、ホリゾント幕バトン1本　程度
東西幕バトン（上手・下手）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速 ・バトン配置は、袖幕の位置や長さを考慮して計画する。
音響反射板（一式）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、自動変角対応 ・天井反射板、正面反射板、側面反射板で構成する。 ・音の反響に最適な材質・質量、角度等を検討のうえ、適切な音響設計とする。 ・音が効率良く客席に届くよう、各反射板間の隙間や客席天井面との隙間を極力少なくす

ること。 ・側面反射板においては出入り扉を1箇所以上確保し、フルコンサートピアノがスムーズに出し入れ可能とする。
幕設備
・引割緞帳、暗転幕、一文字幕、袖幕、引割幕、大黒幕、ホリゾント幕、東西幕、スクリーン、紗幕を適宜計画する。 ・幕地や幕レールは吊り込みや吊り換えが簡易にできるようにする。 ・スクリーンは必要に応じて、吊物バトンに吊れるように計画する。
舞台機構操作盤
・舞台下手袖で操作することを基本とし、下手以外でも操作が可能なよう、可搬式で計画する。 ・操作性、視認性、安全操作に配慮した舞台機構操作卓とする。 ・操作履歴やトラブルなどの履歴を記憶できるように計画する。 ・グループ運転を可能とする。

(2) 舞台照明設備

- 舞台各所に直電源の分電盤と調光用信号を設置し、それに対応するための移動型調光器を必要台数配置すること。
- 灯体等の吊り込み作業は床レベルで行うことを前提とする。
- 舞台照明全体のシステムは、LED導入を念頭に置いたシステムとし、納入時、十分な性能が認められるLED機器を積極的に導入する。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能の提案は可とする。

[参考仕様]

負荷設備
・舞台面にはフロアコンセント、仮設電源盤などを想定する公演に対して適切な位置と数を適宜配置する。 ・客席空間内には客席サスペンションライト、フロントサイドスポットライト（上手・下手）、シーリングスポットライト、フォロースポットライト、ウォールコンセントなどを適宜配置する。 ・主舞台部にはサスペンションライト、ボーダーライト、アッパーホリゾントライト、ロアーホリゾントライト、トーメンタルタワーライト（上下）、天井反射板ライトなどを適宜計画する。 ・多様な演出に対応した照明器具、効果器、スタンド、ケーブル等を過不足なく計画する ・フォロースポットライトは4台程度を設置する。 ・ロアーホリゾントライトは専用台車付とする。 ・天井反射板ライトは舞台面照度700lx以上を確保する。 ・ワット数や角度は各投光ポジションに合わせて適宜計画する。 ・照明設置作業に配慮した作業灯を設置する。
調光設備
・ランニングコストの低減と舞台照明回路のバランスを考慮した電源容量を設定する。 ・漏電など異常が検知できる機能を備えた移動型調光器を導入する。 ・移動型調光器は静音タイプとする。 ・舞台芸術の演出に対応した電源容量・調光回路数を確保する。 ・将来性を見込み、ムービングライトやLED照明の直電源として100V及び200Vを設ける。 ・調光信号線は、イーサネットを基本とし、様々な機器を接続できる計画とする。 ・DMX-Nodeを適宜配置する。

・調光操作卓は、デジタル調光卓とする。
・調光回路数に応じたプリセットフェーダーを計画する。
・客電を操作できる機能を計画する。
・客席内での持込卓に対応できるようコネクターボックスを計画する。
・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台袖である程度の操作が可能なものとする。
・客席、舞台の作業灯を操作できるスイッチを計画する。
・調光操作卓もしくは近い位置で客席内非常口誘導灯の一時消灯が可能なような機能を備える（実施については所轄官庁との協議及び指導を前提とする。）。

※現市民会館大ホールの調光卓（2021 年設置　丸茂製プリティナ・メガ 100ch）をオーバーホールして事業期間中使用できるのであれば、これを活かした提案も可とする。

(3) 舞台音響・映像設備

- 演目を問わず、すべての客席に適切な音を届けることができるよう建築音響計画と一体的に計画する。
- デジタルシステムを基本とし、ノイズ対策や将来の拡張性、更新などにも配慮した設備として計画する。
- ネットワークの二重化やネットワーク監視システムを構築し、より高い安定運用を目指した音声伝送システムとすること。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能の提案は可とする。

［参考仕様］

音響設備

・多様な演目（舞台芸術、音楽芸術、集会・大会など）に対して過不足なく対応できる音響設備（拡声機能、録音機能、再生機能など）を計画する。
・客席形状に十分に配慮し、あらゆる客席に均一な音圧で、明瞭度の高い音を供給できるメインスピーカーの設置を計画する。
・メインスピーカー（プロセニアムスピーカー・プロセニアムサイドスピーカー）を中心に、舞台へのはね返りスピーカー、効果音などをサポートする移動型スピーカーなどを適宜配置する。
・客席空間内にウォールスピーカー、シーリングスピーカーを適切に配置する。
・客席空間内に三点吊りマイクを計画する。
・音響反射板利用時のアナウンス等でも自然かつ明瞭に聞こえる拡声設備とする。
・各種移動器具（スピーカー、マイクなど）が設置可能な各種コンセントを適宜計画する。
・音響調整卓は、国内外での実績を持つデジタル卓を計画する。
・調整室には、デジタル卓を中心に周辺機器架を適宜配置する。
・客席内での音響調整（場内PA）が可能なようにコネクターや電源を計画する。
・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台袖である程度の操作が可能なものとする。
・スピーカー、マイク、ケーブル、スタンドなど移動器具を過不足なく計画する。
・持込機材（音響調整卓、アンプ、スピーカー等）の設置及び電源供給が十分かつ円滑に行えるようにすること。
・導入する音響システムや想定する催事の規模に相応した電源容量を確保する。
・難聴者支援装置を適宜計画する。

舞台連絡設備

・舞台各所や調整室、投光室など舞台進行上必要な場所にインターカムシステムを計画する。

また、ホワイエなど仕込みや観客誘導でも必要な箇所にも同様の設備を計画する。 ・エアモニターマイクを設置し、ロビー・ホワイエ、客用トイレ、楽屋、管理関連諸室などで出力できるようにモニタースピーカーを適宜設置する。 ・舞台進行や観客誘導の状況を確認するためのITVカメラを舞台及び客席内、ホワイエ周りに適宜設置し、ITVモニターを舞台袖、ホワイエ、楽屋、管理関連諸室など適宜必要箇所に設置する。なお、進行時に重要な場所は映像のタイムラグが少ない計画とし、適宜暗視・録画機能があるものを設置する。 ・テレビ中継にも配慮した計画とする
映像設備
・映写室に舞台上のスクリーンに映像を映すためのビデオプロジェクターを設置する。 ・プロジェクターはホールの規模や距離に適したものとし、客席が明るい状態でもすべての客席から投影された内容が視認できる明るさを備えたものとする。 ・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台袖である程度の操作が可能なものとする。 ・コンピュータと接続ができ、プレゼンテーション（静止画、動画）などの利用ができること ・周辺機器として映像再生装置を計画する。

(4) 備品等

- ホワイエの家具（もぎり台等を含む）については、ホワイエ単独利用時に自由な使い方ができるよう、可搬性の高いものとする。
- 開いた使い方をする際に多様な活用ができるように、運営の考え方とあわせて備品を備えること。

【多目的ホールの要求水準】

課題	・様々な人に日々の練習の成果を発表できる場所が求められている。 ・イベントや周辺学校の音楽や演芸の発表会を催せる多目的ホールが求められている。
基本的な過ごし方	・舞台芸術に加え、学習成果や美術作品、映像等の展示、作品の販売など、市民の多様な活動の発信ができる。 ・地産品、地元産業の展示会、販売会など、地域の産業振興にも寄与する。 ・開放利用時は閲覧、学習、遊び場など市民のニーズに合わせて多様に変化し、気軽に過ごせる親しみの持てる場となる。

1. 建築

(1) 舞台・客席

- 生音のコンサート、会議・講演、電気音響を用いたロック・ポップス等のライブ、展示会・展覧会、演劇、演芸、映画会等に利用できるようにする。
- 舞台・客席はフラットな一体の床とし、舞台を設ける場合は仮設舞台を設置する。
- 席数は200席以上とし、平土間床に椅子を並べるものとする。
- ホールの利用がないときは、屋外オープンスペースや共用部に開かれ、融合的に使えるようにする。
- メインホールと同時間帯に異なる利用がある場合、同時併用がある場合、いずれも問題な

く使えるように動線を考慮する。

- 遮音や振動に十分考慮した構造とする。
- 幕又はカーテン等により、残響の調整が容易にできるようにすること。
- 舞台備品、客席椅子などを収納する舞台備品庫、客席備品庫を設ける。共用部に融合したり、遊び場等他用途に転用したりする際に備品がホール内に残置されて利用者の安全の妨げとならないよう、十分な広さを設けること。
- 自由な舞台レイアウトに対応できる舞台照明、舞台音響・映像設備を計画すること。
- 公演利用時には鑑賞に問題のない静かさを担保できるよう、閉じて利用する際には静かさを評価する指標としてNC-25程度を確保する。

(2) 楽屋

多目的ホールの楽屋については、「別紙２　諸室の要求水準」の「会議室兼多目的ホール楽屋」の項を参照すること。

(3) ホワイエ

- ホワイエは、共用部に含めてもよいものとする。
- ホワイエを別で設ける場合、ホール利用のないときは共用部と一体化したり、展示・練習等の空間として単独利用したりできるようにする。
- 有料公演開催時には一般来館者と、チケットをもぎった後の観客の動線を明確に区別できるようにパーティションや間仕切り等を設ける。
- 電子チケットでのチケットもぎりを想定した電源等を備える。
- ホワイエで利用する備品を収納する備品庫を設ける。
- 周辺の共用部と併せて（多目的ホール専用でなくてよい）、客席数に応じた男子トイレ、女子トイレ、多目的トイレを設ける。空気調和・衛生工学会の「衛生器具の適正個数算定法」による算定方法にて、サービスレベル１を満たす個数となるように努める。観客の男女比に応じて、間仕切り位置を変えるなどして個数が変えられるようにすること。

2. 一般設備

下記の設備等を設けること。

- 公衆無線LAN、有線LAN
- 防犯カメラ
- 電気時計

3. 舞台特殊設備

(1) 舞台機構設備

- 吊物配置計画は演出の自由度を第一に考えた計画とし、舞台の大きさに適した本数・数量を設置するものとする。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能

の提案は可とする。

［参考仕様］

吊物バトン（2台以上）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は最大500kgを見込むこと。
ライトバトン（3台以上）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は必要となる照明荷重以上を見込むこと。
ホリゾント幕バトン（1台）
・電動ドラム巻取式、昇降速度：一定速、レベル設定・表示機能付 ・積載荷重は必要となる幕の積載荷重以上を見込むこと。
幕設備
・ホリゾント幕、その他幕類を適宜計画する。
舞台機構操作盤
・舞台下手袖で操作することを基本とし、下手以外でも操作が可能なよう、可搬式で計画する。 ・操作性、視認性、安全操作に配慮した舞台機構操作卓とする。 ・操作履歴やトラブルなどの履歴を記憶できるように計画する。

(2) 舞台照明設備

- 舞台各所に直電源の分電盤と調光用信号を設置し、それに対応するための移動型調光器を必要台数配置すること。
- 灯体等の吊り込み作業は床レベルで行うことを前提とする。
- 舞台照明全体のシステムは、LED導入を念頭に置いたシステムとし、納入時、十分な性能が認められるLED機器を積極的に導入する。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能の提案は可とする。

［参考仕様］

負荷設備
・事業者提案による多目的ホール空間に対し、あらゆる角度から床面に投光可能な計画とする。 ・フロアコンセント、仮設電源盤などを想定する公演に対して適切な位置と数を適宜配置する。 ・サスペンションライト、ホリゾントライト、フォロースポットライト、ウォールコンセントなどを適宜配置する。 ・多様な演出に対応した照明器具、効果器、スタンド、ケーブル等を過不足なく計画する ・ワット数や角度は各投光ポジションに合わせて適宜計画する。 ・照明設置作業に配慮した作業灯を設置する。
調光設備
・ランニングコストの低減と舞台照明回路のバランスを考慮した電源容量を設定する。 ・漏電など異常が検知できる機能を備えた移動型調光器を導入する。 ・移動型調光器は静音タイプとする。 ・舞台芸術の演出に対応した電源容量・調光回路数を確保する。 ・調光信号線は、イーサネットを基本とし、様々な機器を接続できる計画とする。 ・DMX-Nodeを適宜配置する。 ・調光操作卓は、デジタル調光卓とする。

・調光回路数に応じたプリセットフェーダーを計画する。
・客電を操作できる機能を計画する。
・客席内での持込卓に対応できるようコネクターボックスを計画する。
・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台脇である程度の操作が可能なものとする。
・客席、舞台の作業灯を操作できるスイッチを計画する。
・調光操作卓もしくは近い位置で客席内非常口誘導灯の一時消灯が可能なような機能を備える（実施については所轄官庁との協議及び指導を前提とする。）。

※現市民会館中ホールの調光卓（2023 年設置　丸茂製プリティナ・メガ移動型 60ch）をオーバーホールして事業期間中使用できるのであれば、これを活かした提案も可とする。

(3) 舞台音響・映像設備

- 基本的な拡声ができる構成とし、講演会から舞台芸術等まで、適切な音を届けることができるよう建築音響計画と一体的に計画する。
- デジタルシステムを基本とし、ノイズ対策や将来の拡張性、更新などにも配慮した設備として計画する。
- ネットワークの二重化やネットワーク監視システムを構築し、より高い安定運用を目指した音声伝送システムとすること。
- 以下の仕様を参考に提案を行うこと。なお、ホールの性能をさらに高めるための設備や機能の提案は可とする。

［参考仕様］

音響設備
・講演会から舞台芸術等まで過不足なく対応できる音響設備（拡声機能、録音機能、再生機能など）を計画する。 ・客席形状に十分に配慮し、あらゆる客席に均一な音圧で、明瞭度の高い音を供給できるメインスピーカーの設置を計画する。 ・メインスピーカーを中心に、サイドスピーカー、効果音などをサポートする移動型スピーカーなどを適宜配置する。 ・客席空間内に、シーリングスピーカーを適切に配置する。 ・各種移動器具（スピーカー、マイクなど）が設置可能な各種コンセントを適宜計画する。 ・音響調整卓は、国内外での実績を持つデジタル卓を計画する。 ・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台脇である程度の操作が可能なものとする。 ・スピーカー、マイク、ケーブル、スタンドなど移動器具を過不足なく計画する。 ・持込機材（音響調整卓、アンプ、スピーカー等）の設置及び電源供給が十分かつ円滑に行えるようにすること。 ・導入する音響システムや想定する催事の規模に相応した電源容量を確保する。 ・難聴者支援装置を適宜計画する。
舞台連絡設備
メインホールに準ずる。
映像設備
・ビデオプロジェクター及び電源を設置する。 ・プロジェクターはホールの規模や距離に適したものとし、客席が明るい状態でもすべての客席から投影された内容が視認できる明るさを備えたものとする。 ・催事によっては最小限の技術スタッフとなる場合も想定し、舞台脇である程度の操作が可能なものとする。

・コンピュータと接続ができ、プレゼンテーション(静止画、動画)などの利用ができること。
・周辺機器として映像再生装置を計画する。

(4) 備品等

- 利用者が組み立てや配置を行うことを想定して、使いやすい仮設舞台や客席椅子を選定すること。またこれらの備品の収納を考慮して計画すること。

(5) 多目的ホールのイメージ事例

- 釜石市民ホールTETTO（岩手県釜石市）　ホールＢ
- ひらしん平塚文化芸術ホール（神奈川県平塚市）　多目的ホール